

# 10年産米 品薄続く 県内スーパーや販売店



県内でもコメの品薄状態が続き、スーパーのコメ売り場にはほとんど商品が並んでいない＝山形市内

## 震災後の風評で買いだめ、卸業者が在庫確保

県内のスーパーや米販売店などでここの2週間ほど、極端なコメの品薄状態が続いている。新米との切り替え時期とはいえ、例年は十分に在庫がある前年産米が、今年は福島第一原発事故の影響を懸念した消費者の買いだめや、大手卸業者による在庫確保などで不足しているため。ただ、県が19日に2011年産米の放射能安全宣言を行い、出荷自粛を解除したことにより、今週末からは県産の新米が店頭に並び始める見込みで、県内の小売業者や卸業者も胸をなで下ろしている。

ある県内スーパーの担当 荷を控えたこの時期は2方者によると、各自自治体が新 月分の在庫で対応できた米の放射性物質検査を行う が、今年は8月中旬に売り切方針がマスコミで報道され た。さらに、いつもは9た8月4日ころから、店頭 月10日ころから出荷されるでの販売が過熱。お盆す 秋田県産の新米も、19日のぎまで、例年の2倍以上の 安全宣言まで出荷を自粛し販売状況が続いたという。 たことで品不足に拍車がか掛 担当者は「例年、新米出 かった」と説明する。

## 新米、近く店頭

別の小売店も状況は同じで、9月以降は卸業者からも入手できない状態。8月初めから、精米より長期保存できる玄米の問い合わせも増え、1人で100kgほど求めた人もいたという。村山地方の卸業者は10年産米は県内にはほとんどないといいい、震災後のコメ不足に加え、放射能汚染や供給不足懸念といった風評により、一般消費者の家庭内備蓄が増えたと推察する。大量のコメを夏場に買いだめたケースではトラブルもあった。ある米穀店では「低温で管理できる設備がない家庭では、長期保存は難しく、虫がわいたというクレームも多い。きちんと説明しているが、それでも買う人はいた」。

一方、現在の不足状況は、新米が並べば解消するというのが共通した見方。村山地方の卸業者は「無理をして高い古米を買いだめしたり、県外産の新米を急いで買うのは得策でない。安全性が確認された県産の新米が並ぶのを待つてほしい」と呼び掛けている。

## 米粉100%菓子 文科相も試食

山形大など開発 東京・霞が関の文部科学省前で21日、プラスチック成形技術を応用し山形大などが開発した米粉100%の菓子の試食会が行われた。中川正春文科相も訪れ、「味も技術も画期的だ」と研究者を励ました。



米粉100%のシュークリームを試食し、西岡昭博山形大大学院准教授(右)に声をかける中川正春文部科学相(左)

同大職員が昼休み時間に省庁職員やOLらに配布。「さっぱりしている」「サクサクでおいしい」などの声があがった。中川文科相は試食後、西岡准教授から開発の経緯の説明を受け、「素晴らしい発想だ」と言葉をかけていた。

出荷前県基準値超 放 県は21日、牛計34頭の故を行った結

## 空間放射線測定値(県発表)

	21日午後5時	21日午前8時
山形市	0.044	0.044
米沢市	0.099	0.085

※人体への影響はない  
単位はμSv/時。測定地点の地表からの高さは山形、米沢とも約20cm。胸部エックス線検査1回の放射線量は約60μSv。山形市のこれまでの最高値は0.129μSv、米沢市は0.187μSv

## 水道水の放射性物質測定値(同)

◆放射性ヨウ素 放射性セシウム